

安楽寺だより

第52号

紙面内容

- 2面 秋季永代経厳修(榎山正樹師)
- 3面 本山報恩講団参のご案内
- 4面 日本仏教史(補足)蓮如上人8

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二(八四一)二六〇六

第11回 お釈迦さま伝道の宣言

仏教で最も大切な三つの宝、仏(目覚めた人)法(真実の教え)僧(教えに感動し歩み始めた人の集い)・・・これが誕生した後、お釈迦さまは伝道の旅に出る決意をされました。

お釈迦さまは、教えを説く者も受ける者も、それぞれに欲望を抑制し、出来る限り自由になることをお話されました。自分で努力し、自分で法に合致した生活を実践すること、そして教えは始めから終わりまで明瞭で、筋道が通ることが求められました。

お釈迦さまは、お悟りを開かれたインド東部のマガダ国に戻られ、当時ウルベーラ一帯で名声を博していた、バラモンの拝火教徒の指導者カーシヤパ三兄弟とその千人の弟子たちに教えを説き、お釈迦さまの弟子として受け入れました。

そして、ブツダガヤー近くにあるガヤーシーサ(象頭山)の頂きで火をたとえとする教えを説かれました。

『見よ、すべては燃えている。目は燃え、耳は

「すべては燃えている」



カーシヤパ3兄弟の仏礼拝図
 (カブール国立博物館蔵)

長兄・ウルヴェーラカーシヤパ
 次兄・ガヤーカーシヤパ
 弟・ナディーカーシヤパ

燃え、舌は燃え、色は燃え、生老病死、

愁い、悲しみ、悩み、悶えの火によって燃えているのだ』と、人間の感覚器官が何らかの対象に執着して欲望を引き起こすと説かれ、人間が常に心身を欲望に振り回されていることを『燃えている』とたとえられたのです。

そして、この燃えあがる火を消す方法として、欲望を抑制することを教えました。これを聞いたカーシヤパ兄弟と千人の弟子たちは、大きな感動を受けました。

その後、お釈迦さまは、弟子たちを率いてマガタ国の都・ラージャグリハ

(王舎城)に入りました。国王ビンビサーラは、以前沙門だったシツダールタと「成道したら必ず戻ってきて法を説いてほしい」と約束していました。

ビンビサーラ王は、大変喜んでお釈迦さまを迎えられました。そしてお悟りの説法を聞いて、多くの臣下の人たちと共に仏法に帰依されました。お釈迦さまや比丘たちに食事などを提供され、精舎を寄進したいと申し出られました。

それまでお釈迦さまは、一所不定で樹下石上の生活を続けていました。しかしインドの雨季には一か所にとどまる必要がありました。インドでは七月中旬から九月中旬までは雨季で、豪雨のこともあり、一日中降り続くこともあります。この時期に遊行していると危険な時もあります。雨季の間はある場所に留まって托鉢をしつつ過ごしていました。

ビンビサーラ王は、都郊外の竹林の園を寄進することになりました。この竹林精舎の建立によって、仏教教団の拠点が誕生することになりました。

秋永代経法要を勤める

九月十三日、秋の永代経法要をお勤めしました。九月に入っても、35度を越すような暑い日でしたが、大勢の皆様にご参拝いただきました。本堂で読経いたす中、皆様方に亡き方を偲んでご焼香いただきました。その後、榎山正樹師（稲沢・教西寺住職）にご法話をお願いいたしました。

「古来より、暑さ寒さも彼岸まで」と申しますが、四季のある日本の風土に合わせ、彼岸（浄土世界）に想いをはせる法要が、永代経法要です。

『娑婆の縁つきで、ちからなくして終わるときに、

かの土へはまいるべきなり』（歎異抄第9条）と、親鸞聖人は申されます。日頃私たちは、健康で長生きしたいと思い、なるべく他人の世話にならないよう努力しています。

先日、昭和区にお住いの80代男性のお宅にお参りに伺った時、「2年前より抗ガン治療受けてきましたが、7月末にガンの転移が判明し、今度の正月は越せないとい患者から告げられました」そして家系図を提示されてご家族を紹介され、「そろそろお

別れする時が近づいてきました」と静かに、しかし穏やかにお話しされお姿に「お任せするしかない」と、こころはすでにお浄土に参っておられるように思いました。

聖人は『いそぎ参りたきころなきものを、ことにあわれみたまうなり』と申しておられます。仏さまは、終わっていくいのちを生きている方に、「あなたを救いたい」と、呼びかけておられます。

名古屋の別院でご法話を



させていただく時に、「ほとけさまの教えはそうかもしれないけど、娑婆はそうはいかんと話される方がいます。自分のものの見方や経験を柱にして生きてこられた考え方は、簡単には変わりません。しかし、ほとけさまの教えに『お育てをいただく』ことで、少しずつ仏法にうなづくところが育ち、「自分は教えを疎かにしてきた」と感じ、思いどおりにいかない自分のいのちに気付いていくことが、ほとけさまの教えに出遇うことではないでしょうか」

永代経法要にご参拝お一人おひとり、わが身を内省し、真剣に聞いておられました。

ほとけさまの教えに「お育てをいただく」



本山報恩講に参拝致しましょう

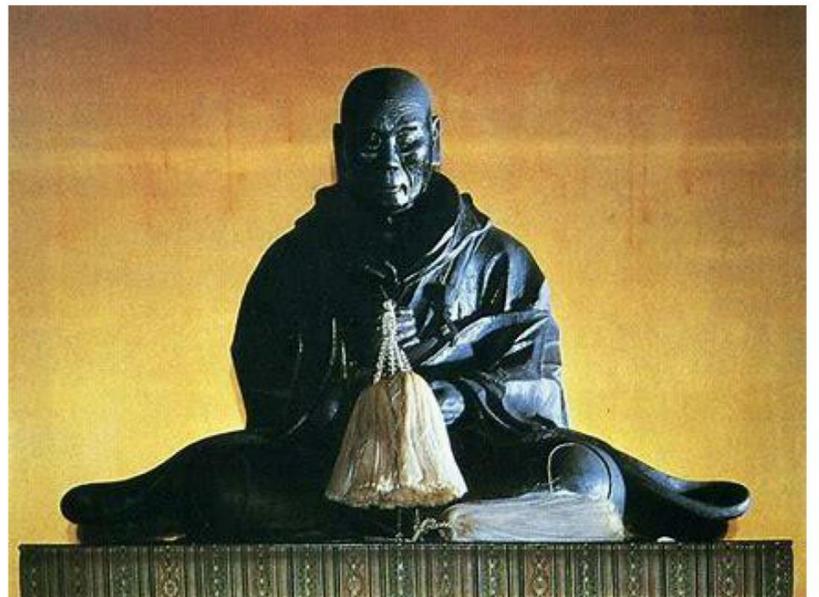
22組主催



十一月二十一日から、東本願寺（真宗本廟）で親鸞聖人の報恩講（御命日法要）が勤まります。

報恩講二日目の十一月二十二日（水）に二十二組の寺院・ご門徒の皆様と団体参拝をいたします。

お念仏の教えをいただかれた先人の方々は、何百年にもわたって聖人在世のお姿を偲び、多くの人びとを「御同朋御



親鸞聖人の御影

同行」として見いだしていかれた聖人のおこころを確かめ合って「念仏相続の御仏事」を勤められてきました。

報恩講は、聖人の教えに出会い、私自身の生き方を尋ねていく法要です。

本山参拝のあとは、東山の清水寺に参詣いたします。

参拝ご希望の皆様は、団体参拝募集要項をご覧の上、十一月十日までに安楽寺までお申し込みください。

団参パンフレットの必要な方は、安楽寺（052・841・2606）へご連絡をお願いいたします。

秋彼岸墓法要を勤める



九月十六日、八事霊園安楽寺墓地で秋彼岸墓法要をお勤めいたしました。連日の残暑で真夏の続きのような陽気でしたが、朝から大勢の皆様にご参拝いただきました。

三年余りコロナウイルス感染状況が続いてきましたが、少し落ち着きを取り戻して来たようので、こころ静かに浄土世界に往生された先祖を偲んで手を合わせておられました。

午前十時三十分から永代供養墓の前で、読経するなか、ご参拝の皆様は亡くなられたご家族に想いを馳せて、お焼香をしておられました。

法要の様子は、安楽寺会館にオンラインで同時中継し、五十名を超す皆様にお参りいただきました。

ご参拝いただき誠にありがとうございました。

仏教豆知識

第五十二回



日本仏教史

補足 蓮如上人⑧

⑬ 留守職を実如に譲る

蓮如上人は、延徳元年（一四八九年）に山科本願寺南殿に隠居所を設け、本願寺留守職を五男・実如に譲られることになりました。

しかし、その後も全国の門徒衆に宛てて御文を出されたり、本願寺を訪れる求道者の教化に当たられ、名号を精力的にお書きになりました。

⑭ 御一代記聞書（空善記）

蓮如上人の言行録とも言うべき『蓮如上人御一代記聞書』（三百十六ヶ条）は、上人の率直なご感想やお人柄を知る手掛かりとして、現在でも親しく読まれています。

一 上人仰せられ候う。「物をいえいえ」と、仰せられ候う。「物をいわぬ者は、おそろしき」と、仰せられ候う。「信不信、ただ、物をいえ」と「物を申せば、心底もきこえ、また、人にもなおさるるなり。ただ、物を申せ」と、仰せられ候う。（八七条）

一 一宗の繁昌と申すは、人の多くあつまり、威の大なる事にはなく候う。一人なりとも、人の、信を取るが、一宗の繁昌に候う。・・・（一二二条）

一 「一句一言を聴聞するとも、ただ、得手に法をきくなり。ただ、よく聞き、心中のとおり、同行にあい談合すべきことなり」と云々（一三七条）

一 「人のわるき事は、よくよくみゆるなり。わが身のわるき事は、おぼえざるものなり。わが身にいられてわるきことあらば、よくよくわろければこそ、身にいられ候うと思いで、心中を改むべし。ただ、人の云う事をば、よく信用すべし。わがわるき事は、おぼえざるものなる」由、仰せられ候う。（一九五条）



蓮如上人銅像（大谷派山科別院）

観測史上最も暑い夏だった今年も、秋の装いに変わろうとしています。地球温暖化・異常気象の影響で、農林水産物の価格も上昇が続いています。▼諸外国からの輸入に頼る日本では、食料供給を不安定にさせる要因が増加し、食料安全保障のリスクが高まっています。▼日本の食料自給率は、カロリーベースで38%で、五〇年程前（一九七〇年）の約半分になっています。日本人の食生活の変化（欧米化）が要因と言われていますが、輸入する農産物関税の削減・撤廃と国内農業保護の削減が農業危機になった最大の要因だと思います。▼日本政府は、防衛費倍増が日本の安全保障に必要と言っています。国民の食料自給率をあげるために、国の予算を大幅に使う政策をとることこそが、真の安全保障になると言えるのではないのでしょうか。